



Club Weekly Bulletin

■創 立：昭和54年1月23日 ■例会：毎週火曜日 17:30
 ■事務所：奈良市大宮町6丁目2-1 南都銀行大宮支店内 電話 0742-33-8583
 ■例会場：奈良市高畑町1096番地 奈良ホテル本館 電話 0742-26-3300(代)
 ■会 長：井上正行 ■副会長：北神徳明 幹事：増井義久



卓話 人材活性プロデューサー 大谷 由里子 様

会長報告

- 地区よりロータリー青少年指導者育成プログラム修了証書が届きました。当クラブ新世代委員長武中会員のお嬢様で、武中涼香さんです。本日は学校の関係で来られませんので、またの機会に来て頂くようお願いしておきます。
- 太宰府ロータリークラブより今月15日に行われました35周年記念例会の出席に対するお礼状が鬼木会長より届いております。
- 4月の例会で発表しました日台ロータリー親善会議が京都のグランピアホテルで今週の金曜日、6/1に行われます。当クラブから申込者がおられなかったため、ガバナーを輩出するクラブとして出席要請もあり、有井幹事長予定者、武藤副幹事長予定者、私の3名が出席することになりました。また、内容につきましては、次週の例会で発表させていただきます。
- 入院されておりました藤川会員よりお電話を頂き、25日に退院されたとのことです。当分の間自宅で療養します、とのことで、皆様に宜しくお伝えくださいますことです。

卓話 人材活性プロデューサー 大谷 由里子 様

「きばらんかい「経営者」」

私は、昭和60年に吉本興業に入社しました。吉本興業へ入社すると、必ず売れているタレントのマネージャーの仕事から始まります。マネージャーの仕事というと、スケジュール管理やタレントのお世話という話が出てきますが、私が22歳の時から会社に叩き込まれたのは、戦略と戦術を立てることのできる人間になれるということでした。どうすれば上手くいくのか、儲かるのか、人が動いてくれるのかを考えられる人間になれる、そして、人のせいにするな、会社のせいにするな、と叩き込まれたのが吉本興業という会社です。なぜ新人が一番売れている商品を持たせるかということ、売れている商品というのは放っておいても発注があり、問い合わせもあるので、その間に自分の人脈を作り、自分の作った人脈に対して新しい商品を提案したり、自分の作った人脈と新しい商品を開発したりするのが、商売の基本であると教えられました。私は3人目の女性マネージャーで、2人目までは桂三枝さんのマネージャーから始まったので、私も三枝さんのマネージャーからやると聞いていました。ところが三枝さんが今年の新入社員は俺に付けるなというので、今まで男性のマネージャーしか付いた

2011~12年度 当クラブテーマ
 「クラブの未来のために
 リーダーを育成しよう」



国際ロータリー第2650地区
 ガバナー 今西 信裕



四つのテスト

- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

例会プログラム

第44回 6月5日
 通算1602回

1. 開会の点鐘 17時30分
2. ソング
 「君が代」
 「それでこそロータリー」
3. お客様の紹介
4. 会務報告
5. 卓話
 (株)ビッグエル・グループ
 代表取締役 菅原淳輔 様
 (福井北ロータリークラブ)
 「奈良大宮RCの
 知名度アップについて」
6. 閉会の点鐘 18時30分

例会状況報告

第43回 5月29日
 通算1601回

| | |
|----------|--------|
| ● 会員数 | 70名 |
| ● 出席免除者数 | 23名 |
| ● 出席者数 | 53名 |
| ● 出席率 | 85.48% |

第41回 5月15日
 通算1599回の修正

| | |
|----------|--------|
| ● 会員数 | 70名 |
| ● 出席免除者数 | 23名 |
| ● 出席者数 | 67名 |
| (内補填者数) | 9+3名 |
| ● 出席率 | 98.53% |

ことがないから、横山やすしに1回女性のマネージャーを付けてみるということになりました。それで横山やすしさんのマネージャーになったのですが、あの人のように自分に甘く他人に厳しい方はおられません、私はとことん振り回されました。たとえば待ち合わせしてても、なかなか来ません。ぎりぎりになって前の寿司屋から出てきます。そして私は待ち合わせ場所で待っていましたが、「あほかお前は、言われた所で待ってるだけなら犬と一緒にやろ、嘘でもお前、前の寿司屋覗いてみようと思わんのか。」と言われます。確かにそう言われたらその通りだと思って、次は寿司屋を覗いて、居なかったので待っていると、今度はぎりぎりの時間に別の方からやってきて、「あほかお前は、何でわし毎回寿司食べやなあかんね、うどんかて食べるやろ。」と言われました。それはその通りだと思い、次は寿司屋もうどん屋も喫茶店も見つて戻ってきたら、横山さんが立っていて、「うろうろすんな」と言われました。どれだけ勝手なんだと思いましたが、「お前ら人に仕掛ける人間にならなあかん、人に仕掛ける人間になるんやったら、相手の行動パターン、相手の考え方を3パターンくらい想像せい。」と言われました。自分を正当化させたら天下一品の方でしたが、会社で一番教えられたのが何かという場作りです。いい場に、いい空気が流れて、いい発想が生まれて、いい人が育つという、そして、空気とか場というのは自分たちが作っているということです。楽しい時にとる行動をしているうちに楽しい気分になること、盛り上がっている時にとる行動をしているうちに盛り上がることはたくさんあります。逆に、盛り下がっている時にとる行動をしているうちに盛り下がることもたくさんあります。なぜ、企業や地方自治体がこんなことを一生懸命やっているのかというと、今の日本の時代背景です。20年前の日本はこんなことしなくても良かったのです。なぜなら、平均年齢27歳の国だからです。今の日本は平均年齢47歳の国です。放っておいたら盛り下がります。2012年、気になることの1位は政治でも経済でもなく自分の健康と書く人がどれだけ多い国になったか、その中で何が起きているか、今までは1人の上司にたくさんの部下がいました。放っておいても盛り上がっていましたが、今は1人の部下にたくさんの上司で、しかもバラバラなことを言います。この状況でモチベーションを上げて若い子にやる気を出させるということは凄く大変です。それでいま企業は、どうすればいい空気が作れるか、場作りができるか、毎日パソコンに向かってるけど、どうすればコミュニケーションがとれるかを必死になって行っているのですが、私は吉本興業でとことん場作りというものを教えてもらいました。私たちの仕事は、タレントを盛り上げて、舞台に出して、良いパフォーマンスをしてもらうことが大事だったからです。それで、プラス言葉を使え、褒め合えと徹底されたのです。

そんな吉本興業を私は25歳で結婚退職しました。2年ほど専業主婦をしておりましたが、これほど盛り上げてもらえない世界もなく、私には向いてないと思い27歳で会社を作りました。有難いことに、大宮ロータリーさんに声をかけていただき、会報作るのを手伝ってくれないかと誘われました。私は、三笠中学校、大宮小学校と地元なのですが、会報のお手伝いをさせてもらった時に清岡さんとか中條さんと知り合いにならせていただき、一生懸命会報を作っていたのを覚えております。そんな中で、次第に私たちも忙しくなってきた頃に、有難いことにロータリーの中で会報は自分たちで作らなければいけないということになり、ラッキーと思って辞退させていただくことになりました。

そんな時、私には自分の人生を変えた出来事がありました。吉本興業ではナインティナインや雨上がり決死隊を売り出す頃でしたが、ちょうど吉本興業の先輩から声がかかりました。ナインティナインの岡村君は絶対売れると思いました。吉本興業は若手にチャンスが来ますが、若手というのは張り切り過ぎで失敗します。でも岡村君は違いました。彼は場作りの天才です。タモリさんの番組に出たら、どうすればタモリさんが目立つか考えます。志村けんさんの番組に出たら、どうすれば志村さんが目立つか考えます。タモリさんに可愛いがられ、志村さんに可愛いがられ、私たちがつぎ込んできたタレントが何千万、何億に変わります。お金は人を変えます。彼らが何千万、何億に変わった瞬間に、私たちにとって変わりたい会社が山ほど出てきます。そして、あることないこと言われ、足の引っ張り合いです。吉本の先輩に「お前、俺の悪口言ってたやろ。」と、言っていないのに信じてもらえません。何でこんな所に来てしまったのかと思った時に、次につまづいたのが人材難でした。急に会社が伸びて、50人のコンパニオンを使い、50人のバイトを使い、1億、2億、3億と売上が伸びた時に、人材育成につまづきました。私は良い場を作ることをすっかり忘れていました。「あれできた?」「これできた?」「次これやっという」「それやっという」、自分の心に余裕がなくなり、人の心の元気も奪うことをやってしまいました。そこで、いろんなことが起きました。育てたはずのスタッフが「大谷さん、ありがとうございます。私もっと良い会社が見つかりました。」と辞められたり、パートに一生懸命仕事を教えようとしたら「大谷さん、私は責任を持ちたくないからパートなんです。私にしゃかりきに仕事教えるのはやめて下さい。」と言われたり、バイトが無断欠勤したのを怒ったら「大谷さん、一人ぐらい休んだって回るようにしておくのが社長の責任でしょ。」と言われたり、何でこいつにこんなことを言われなければならないのかと、本当に悩みました。どうすればみんなと同じ夢を見ることができなのか、どうすれば一緒に会社を大きくしていけるのか、本当に悩みました。

そんな時に、17年前の1月17日に阪神大震災が発生しました。私は、その日を境に、昨日というのは今日を保証するものではない、今日というのは明日を保証するものではない、ということをも身を持って体験しました。それまで売上が伸びていたのが、ある日突然売上の95%が無くなりました。売上の95%が無くなっても、会社として続けていかなければなりません。社員の給料も事務所の家賃も支払わなければなりません。そんな中、神戸のお客さんの所で見たのは、たった1~2mの道を挟んで、片方の家は全壊で住人はみんな亡くなり、もう一方はそのまま残っていてそのまま生活しています。私は31歳の時に生まれて初めて自分の脳みそが動き出しました。何でこちら側の人の方が死ななければならなくて、こちら側の方は残ったのだろうと考えました。なぜこの研修をしているか、なぜ企業を元気にしたいのか、とことんここにこだわってるだけなのです。何気なく生きてる今日の1日、何気なく過ごしているこの1時間、これは誰かが生きてかった1日かもしれない、誰かが過ごしたかった1時間かもしれない、そう思い出した時から、私の人生と時間が変わり出しました。生まれて初めて

使命という言葉と向かい合い出したのです。自分の命を何に使って生きていくのか、自分の命の使い方とは何か、皆さんはほとんどが40歳以上だと思いますが、私も含めて人生を折り返しています。持ったまま死ぬる物などありません。では、残せる物とは何かというと、生き方とか生き様というのが凄く大事であると、私はここにこだわってずっと研修をしています。モチベーションマネジメント、心の元気です。では、心の元気はどうして作っていけばいいのか。行動はいくらでも変えることができます。でも、感情や性格はそんなに簡単に変わるものではありません。苦手な人は苦手です。嫌な仕事は嫌な仕事です。でも行動を変えてるうちに、アプローチを変えてるうちに、感情が変わってくることはたくさんあります。それで私たちは、行動を変えるヒントをいろんな形で伝えさせていただき、気付きをいろんな方に与えるテクニックがあるのですが、それを行っているだけなのです。私は、阪神大震災を通して何に気が付いたかということ、笑いの大切さです。落ち込んでいても何にも始まりません。東日本大震災の後、吉本興業社長の大崎さんが真っ先に声明文を出されました。「僕たちは動きます。僕たちは阪神大震災の時に自粛しました。自粛からは何も生まれなかった。僕たちは笑いの会社です。笑いの無いところに希望はない。そう思っている僕たちは動きます」という声明文を出されたのですが、私は阪神大震災の時にそれに気付かされたのです。神戸に行くと、神戸の社長たちが笑わせてくれたのです。「大谷、お前の会社大丈夫か?」「大丈夫じゃないです。」「そうか、そしたら、みかん食べるか、餅食べるか?」「いや、何で神戸の会社にみかんや餅があるんですか?」「救援物資やがな、これ誰が持って来たと思う、こっちは大林組、こっちは大成建設。絶対うちのビルの修理狙っとるで。」とか言っています。こんな時でも笑うことができるのです。そして、笑っているうちに何かできそうな気がするのです。私は、神戸の社長に笑わせてもらった時に、もう失うものは何もない、腹くくって今までやりたかったことをやろう、それは何か、お金も仕事もないけど時間だけはある、私は自分の部下に伝えたかった、本気で働くということは悪いことではないと、みんなで何かやることは悪いことではないと、これを伝えたくてワープロに向かって書いたのが吉本興業女マネージャー奮戦記という一冊の本になって出て、いろんな出合いのチャンスをもたらすことになりました。その本を読んだ方が、たくさん手紙やメール下さいました。

みんな良い会社になりたい、何とか前向きに生きていきたいと思っています。では、何でこんなにギクシャクしているのか、こんなに上手くいかないのか、そこで一つ気が付いた事がありました。それがコミュニケーションでした。コミュニケーション力のチェックですが、1分間で2~3人で楽しく会話していただき、共通点を10個以上見つけて下さい。10個以上見つけられた方はどれくらいおられるでしょうか。これは年をとるほどできなくなります。できなかった人は頭が固くなりつつあると思って下さい。小学生がやるとすぐできます。目が2つある、鼻がある、口がある、……。大人になるほど難しく考えます。これはなぜかということ実は脳の問題があるのです。人は親しくなりたいときは、一生懸命コミュニケーションをとって共通点を見つけているのです。恋愛初期などまさにそうです。「君どこ出身?」「私、大阪。」「僕、奈良。」「関西やね。」、全然離れてると思いますが、一生懸命共通点にしようとしみます。ところが年をとればとるほど人の脳というのは防衛本能が働き、人との違いの方に目が行くようになります。企業でコミュニケーションがとれないと、絶対にジェネレーションギャップは埋めれないと思っていて、私たちはこだわり出しただけなのです。楽しくて為になり元気になるような研修を作れないか、会社の中で縦横斜めで新しい発想が生まれるような研修を作れないか、そんな中で、吉本興業と組んで笑いのある研修というのを始めたのですが、確かに15年前はどこの企業にもアホかと言われました。研修に笑いなんかいらぬと言われました。でも、ここ5年ぐらい前から、研修で人を疲れさせる場合じゃない、やはり笑うことは大事で笑うことは大事だ、と企業も変わり出しました。笑われると笑わせるは違います。笑われるというのは恥ずかしいことかもしれませんが、笑わせるというのは、相手を笑顔にさせるということです。上司を、部下を、仲間を、お客さんを笑顔にさせよう、私たちは15年間そこにこだわり続けてきただけです。お互い笑顔になれば、人を好きになります。結局、上司を好きになる、部下を好きになる、チームを好きになる、これがないのに地域合戦も企業合戦もあり得ません。

私がどうしてここに到着したかということ、大好きな上司に巡り会えたからです。それは吉本興業で常務までなられた木村政雄さんです。私が23歳の時に西川きよしさんの1回目の選挙がありました。吉本興業の先輩もタレントも、みんな西川さんの応援です。私は、横山やすしという人間と向かい合うしかありませんでした。でも23歳の私に40歳の日本一の漫才師の気持ちは分かりません。「お前なんか芸人の何が分かんねん、さっさと嫁にいったらええねん。」と言われました。でも西川きよしさんだけは違いました。一番奥の楽屋から出てきて手を握り締めて「君か、新入社員は、これから一緒に頑張ろな。」と言われたら、西川きよしさんにはついていこうと思いますよ。今から思えばあの時から選挙に出ることを考えておられたのかなとも思うんですが、嫌いになれません。でも、とんでもない話が決まりました。やすしときよしの選挙番組で、番組になるとテレビ局は「西川きよし=正義」「横山やすし=悪」と描きたい。西川さんが老人ホームに行くと、「おじいちゃん、おばあちゃん、長生きしいや」というシーン撮るわけです。その頃、横山やすしは電話1本で、「横山さん競艇場に行ってもらって下さい。」と、私が撮らなければならないのは、「赤や、赤や、赤や」と言っているシーンです。またある時、西川さんは堺で選挙演説をしています。またテレビ局は電話1本で、「すみません、西川さんが選挙演説されてる上を横山さんにセクサで旋回してもらって下さい。」と、落ち込みますよ。人間仕事していて何が一番辛いかというと、前が見えない時です。いつまでこのようなことをしなければならぬのか、何で私だけしなければならぬのか、1人で東京でモーニングを食べていても、涙がどんどん出てきます。そんな中で、西川さんが当選しました。大阪は祭りです。吉本興業から参議院議員です。私は、大阪にいるのが嫌で、1人東京の事務所にいました。まだ東京は当時は事務所でしたが、その時目の前におられたのが40歳の課長の木村政雄さんでした。この木村さんに「なあ、世の中ってみんなええ方についていくねん、でもな、企業とか上司とか組織っていうのは、誰が逃げると一番しんどいことやってたかちゃんと見といたらなあかんよな。」と言われた時に、私は吉本興業に入って初めて嬉しくて泣いたという経験をしました。私はこの

時に木村政雄という上司が大好きになりました。大好きな上司が居るだけで仕事がどれだけ楽しくなるか、ちなみにデータを取っている会社があり、会社に好きな上司がいるだけでモチベーションが上がると答えたのは8割でした。上司を好きになろうよ、部下を好きになろうよ、そこにこだわらなければ企業合戦も地域合戦もあり得ません。だから私たちはとことんそこにこだわっているだけなのですが、その中で、私自身はやはりコミュニケーションが完全にベースにあります。コミュニケーションがとれないのに、人を好きにはなれません。地域好きにもなれません。

私たちの会社は、この木村さんを筆頭に26人が出資して作った会社です。いろんな企業のトップの方にも出させていただき、とにかく人作りをしていこう、どんな人を作るかを感じて、興味を持って動く人作りです。自分で感じて、自分で興味を持って動く人間を作らないと、この国はどうしようもありません。最後にこれだけは言わせてください。私は、父親も弟も医者です。そこから見えてくるのは、寿命と健康なんて別物だということです。人の命などどれだけ儂いか、私はたくさん見えています。80~90歳の方で「わし、ここ悪いねん。もうすぐお迎えくるねん。」と言ってても一向にお迎えがこない方は山ほどいらっしゃいます。逆に、何でこんな人がこんなあっけなくというのも山ほど見えます。縦の長さは神様が決めています、人生の幅というのは自分で何とでもできます。「俺、まだまだやってないことあったよな。まだまだやれることあったよな。比喩なあかんの人ちゃうやん。比喩なあかんの昨日の自分やな。昨日より笑ってるかな。昨日より学んでるかな。昨日より動いてるかな。」そう思うきっかけになってもらえたら、今日私が30分間ここに居た意味が少しはあったかと思えます。

どうも有難うございました。

例会変更

6月

■奈良西ロータリークラブ ■

・6月14日(木)・・・年度末家族親睦移動例会の為、変更。 場所：淡路・鳴門・大塚美術館方面
※ビジター受付は、17:30-18:00まで、奈良ロイヤルホテルフロント横にて行います。



本日計 64,000円 累計 3,023,000円

- | | | | |
|---------------|---|---------------|--|
| 増井義久 君 | 大谷由里子様 本日の卓話 ありがとうございます。本日から始まりました堂本剛さんのコンサートのスタッフ弁当をさせていただきます。 | 渡辺英孝 君 | 小西さん ホールインワンお目出とうございます。 |
| 清岡正教 君 | 本日 卓話の 講師に 大谷様を迎えて | 計良隆司 君 | ・2回にわたる情報集会ありがとうございます。・来る6月18日(月)の北河原公敬さんの「蓮は泥の中で育ちながら泥に染まらない」上梓を祝う会に大勢の出席ありがとうございます。5/31がメ切です。お返事未だの方々、どうぞふるってご出席下さい。 |
| 北河原公敬君 | 今日は朝から雷雨があったり、晴れたり、又雷雨と、次から次へとめまぐるしく変わる天候にふりまわされております。何回もため息が出ました。 | 橋本和典 君 | 第4回情報集会3班の皆様 お疲れ様でした。御協力のおかげ様で有意義な議論がスムーズにできました。有難うございました。箸尾さん 大変お世話になりました。有難うございました。 |
| 有井邦夫 君 | 少し楽しい事ありました。ありがとうございます | 植村将史 君 | 新東名で御殿場まで行ってきました。とても気持ち良かったですが、今だに100km/h制限が残念です。 |
| 小西敏文 君 | 本日奈良国ショート16番で27年目にして初めてホールインワン達成しました。矢追さん、渡辺さん、中條さんのおかげです。又、次回を楽しみに！ | 森山斗福 君 | ニコニコ協力 |
| 中條章夫 君 | 大谷さん本日はご苦労様です。卓話 楽しみにしております。小西さんホールインワンおめでとうございます。小西さんのホールインワンコンペを行ないます。幹事は私が行ないます。よろしくお願い致します。 | 小池恭弘 君 | ニコニコ協力 |
| 矢追家麻呂君 | 小西さん ホールインワンおめでとうございます。 | 弓場裕史 君 | ニコニコ協力 |
| | | 谷川千代則君 | ニコニコ協力 |

次週の例会

平成24年6月12日(火)
クラブ協議会⑤(年間報告)